

はじめに

(1) 協同組合と広報

『協同組合のアイデンティティに関するICA 声明』では「協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」と定義しています。また、『第5原則 教育、訓練、および広報』では「協同組合は、組合員、選出された代表、マネージャー、職員がその発展に効果的に貢献できるように、教育訓練を実施する。協同組合は、一般の人々、特に若い人々やオピニオンリーダーに、協同組合運動の特質と利点について知らせる。」と定めています。

わたしたち生活協同組合は、生協に関わる人たち一人ひとりの「願い」や「想い」を寄せ合い、話し合っ、共通の「ビジョン」「目的・目標」を組合員みんなで創りだし、組織に関わる全ての人が共有し、実現のために自主的・自発的に活動していくことをめざしています。

そのビジョンの実現のために組合員が活動する際にも、活動指針や達成度合いを共有化するためにも「広報」が必要となってきます。

協同組合にとって「広報活動」は、組織を維持・発展させビジョンを実現するために、非常に重要な活動です。

(2) 組合員のくらしの変化

コープしがは共同購入事業を通じて仲間を増やし発展してきました。その原動力となったのは、「グループ（班）」を中心にしたコミュニケーション（情報共有化）の仕組みでした。

グループの荷受の場は商品やくらしに関する情報を共有する場として、また生協について知り知らせ広げる場として、組織運営の仕組みの中で大きな役割を担ってきました。

しかし近年、女性の就業率の増加、個々の生活形態の変化などから、個配という利用形態が急速

に広がっています。またインターネットの普及により、組合員が自分の興味や関心ごとをいつでも容易に入手できるようになり、「協同」から「個」へと意識変化は加速し、グループは単なる「利用の場」へと変わってきています。組合員どうしの会話や交流、情報交換の機会の減少は、生協組合員としての自治意識の希薄化にもつながっています。

このような変化の中で、生協が協同組合として存続し、コープしがの事業と組織を維持・発展させるためにも、広報活動を見直し、現状に見合った「広報活動」を政策として策定いたします。

1. 広報活動の目的

「広報」は一般的には Public Relations (パブリック・リレーションズ) の概略である「PR」と同じ意味で使われ、パブリック（社会）とのよい関係づくりのことを意味しています。

広報の目的は、組織の維持・発展と事業活動を円滑・有利にするために必要な環境を整えることです。その中にはもちろん、商品の供給促進も含まれますが、それ以上に大きい役割は組織理念や事業意義に対する社会的な理解と支持を得るための合意形成にあります。

さらに、生協においては上記のような「外部広報」に加え、「内部広報」も重要です。ビジョンを共有し実現する、また運営的課題を解決する、そのためのマネジメント機能としてのコミュニケーション手段でもあるのです。

また、事業的側面から見ると、利用への結集を呼びかけ促進することで、よりよいくらしづくりを経済的側面から実現するための役割もあります。

2. 広報活動の指針

(1) 活動指針を次のように定めます。

『広報とは、コープしがの使命を実現するためのコミュニケーション活動である』

(2) コミュニケーション活動を展開するにあたって以下のような姿勢で臨みます。

- ①コープしがの使命である、「正直」「安心」「ぬくもり」「つながり」「育む心」を大切にします
- ②協同組合の価値である「自助」「自己責任」「民主主義」「平等」「公正」「他人への配慮」を大切にします。
- ③どの媒体においても「理念や方針」が伝わることを大切にします。
- ④双方向のコミュニケーション活動を大切にします。

(3) コミュニケーション活動を展開するにあたって、以下の手順で臨みます。

- ①何を伝えたいのか、具体的なメッセージを考え
- ②誰に伝えたいのか、その「対象者」を明確にし
- ③そのためにどのような媒体・方法がよいのかを選択する

この3つのプロセスを通じて、対象を絞りながらその人たちの関心を引き出すようなメッセージを作り、その人たちに確実に届く方法を選ぶことが必要です。それにより広報の効果や効率を高める事が可能になります。

3. 具体的な展開

(1) 組合員に向けた広報活動

①キーワード「組合員が主人公」

組合員に向けた広報活動では、いろいろな形で組合員が生協に関わっている様子が見える必要があります。多くの組合員の生き生きとした活動の姿や声などを通して共感を呼び、生協の魅力を広げ、「私も生協の一員、私の生協」と実感できる広報をめざします。

②キーワード「くらしに役立つ」

生協は組合員のくらしの想いや願いを事業や活動を通して実現するところです。

組合員のくらしの視点に立って、関心ごとに対する情報をスピーディーに提供したり、くらしの知恵が広がるような広報をめざします。

③キーワード「組合員・生産者・役職員の顔が見える」

生協の商品・サービス・活動などは、組合員・役職員・生産者など、お互いのつながりで成り立っています。それぞれの立場や想いが伝わり、出会いや交流の場やお互いのつながりが見えるような広報をめざします。

③キーワード「生協の理念・政策・方針が見える」

生協の事業や活動は、協同組合の理念にもとづき、そして組合員の総意で確認した政策・方針にそって運営しています。広報活動を通して、生協の理念・政策・方針を組合員にわかりやすく説明し、協同で運営している組織の認識を組合員が深められる広報をめざします。

(2) 職員に向けた広報活動

①キーワード「理念や方針・政策が共有できる」

職員は協同の願いや想いを実現する役割を担っています。職員が協同組合の理念を心に持ち、方針や政策を絶えず確認しながら力を発揮できるような広報をめざします。

②キーワード「運営課題が見えてくる」

職員は、多様な分野でそれぞれの役割を持ち業務をすすめています。生協全体の現状や課題を自らの業務に関連付けられるような広報が必要です。組織の中での仕事の位置づけや自らの役割が鮮明に見え、新たな力を生み出すことができるような広報づくりをめざします。

③キーワード「事例を通して学ぶ」

活きた事例を取り上げることは、組織内の相互理解を深めるとともに、事例を学び自らの業務に生かすことにもつながります。多くの良い事例にスポットを当てることで共感や触発につながるような広報をめざします。

(3) 外部に向けた広報活動

①キーワード「協同・協働の姿が見える」

協同組合の存在意義に対して理解を深めてもらう事が第1の課題です。外部に向ける広報では、結果もさることながら、その過程でかかわった人や「協同・協働」を大切に生協の想いを反映する広報をめざします。

②キーワード「生協の理念・政策・方針が見える」

事例などを通して生協の理念・政策・方針を外部に広め、生協への認識や理解を深める事は非常に重要です。そのためには組織の動きに精通し、提供できる客観的な情報を整理して発信することで、生協への理解が深まる広報をめざします。

③キーワード「社会的信用を得る」

コンプライアンス経営をすすめる意味では、社会への説明責任は非常に重要です。協同組合という組合員を主体にした開かれた組織運営を知らせ、また内外の課題や問題に対する考え方を公表することで、生協への社会的信用を高めるような広報をめざします。

4. より充実する広報活動のために

広報活動は、社会や組織の変化とともに、そのあり方を修正しながら、展開していくものです。

今後は、生協の事業や活動のさまざまな部分で組合員の意識の変化や関わりの度合いなどを調査する必要があります。それにより、その時々々の現状や、組織内・組織外に投げかけていく事柄や、広報媒体・コミュニケーションのあり方の課題などが見えてきます。その繰り返しの活動こそが、組合員、職員、関係者、そして社会との良好な関係をつくる広報活動になり、組織の維持・発展につながっていきます。

本広報政策は、策定までの問題や課題をとらえ、そのすすむ方向を明らかにしたものです。よってさまざまな広報媒体における編集方針は別途定めます。

広報活動のイメージ

